

歯科技工士会による災害支援活動

木下 勝喜

平成23年3月11日日本国内観測史上最大のマグニチュード9を越える未曾有の大震災が東北地方に甚大な被害を齎しました。

ご家族やお友達、お知り合いが被災され不自由な生活を余儀なくされている方々にはお見舞いを申し上げます。そして尊い命を奪われた方々に心よりご冥福をお祈り致します。

社団法人神奈川県歯科技工士会は日本全国で初めて技工士会の活動として災害支援活動しました。被災地でどんな災害支援活動をしてきたのか？

実際に被災地に10回9カ所の仮設住宅や施設を訪問し、体験した歯科技工士としての災害ボランティア活動を被災地で聞いた現実を交えてお伝えしたいと思います。

また今後の歯科業界関係者の災害復興ボランティア活動の課題と可能性についても皆様と共に学びたいと思います。

歯科技工における労務管理

西村 佳江子

33年前に7年間のOLを経て歯科技工士になった時、この業界の労務管理の不備に驚き、現技工所に入社したと同時に自社の労務管理を少しずつ始めた。そんな時、日技で労務管理の解る部員を探しているとの情報に社長が日技に推薦してくれた。それから丸2年がかりで労務基準監督署の指導を受けて、「雇用安定のための手引き」を執筆し、その後6年かけて全国に普及させるべく飛び歩いた。(法律変更の度に刷新し現在第6版が日技会員に配布されている。)しかし、頭が古く時代遅れのままに時は流れ、一般社会からかなり遅れを取り、少子化も伴い、技工学校の閉鎖が始まってしまった。今でもあの時に‘鬼’になっても普及させて労務管理的にもう少し魅力ある業界になっていれば、ここまでひどくならなかったのではないかと反省しきりである。

その後、時代はどんどん変わり、技工学校で講義する内容も変化していつている。社会では「働き方改革」等と称して、大幅な変革が発生してくると思われる。しかし、我業界は30年前とほとんど変わらない事業形態のまま、あまり合理化も進まず、(そこを上手に変改できたラボが大型化しているのは間違いない。)けれども、コンピュータは導入されたが、納品書・請求書発行機、給料計算機となり、個人の業務能率や業務貢献度等に利用されず、その上にいきなりCAD/CAMが導入され、ソフトウェアを使うことだけに追われ個人の手技による品質の維持や売上の評価が減り、営業力と製作個数に変調してきている。(大型ラボがますます大きくなるだけのような気がしている。)CAD/CAMがダメだと言っているわけではない。我々には先輩より受け継いできた手技によるワザや品質、個人の努力による特技があり、1人の患者をずっとケアし続けるノウハウもある。コンピュータで画一したものではない技術があり、これらを大いに生かしつつ、時代の変改に少しずつ合わせてゆける合理化やコンピュータに振り回されずに、使いこなしつつ各自の技術が生かせるような労務管理を考えてゆきたい。

いろいろな世代や進行状況の違いがあると思うので、それらに少しずつ対応した講義ができればと考えている。